

三陸防災復興ゾーンプロジェクトの推進と令和6年度の取組

目指す姿 岩手県と国内外をつなぐ海側の結節点として持続的に発展する三陸防災復興ゾーンの創造

現状と課題

- ① 「防災」で世界とつながる三陸
 - ・東日本大震災津波伝承館の来館者数が90万人を突破。三陸のゲートウェイとして定着。震災を経験していない世代の増加等により風化や関心の低下が懸念
 - ・震災の事実・教訓の次世代への確実な伝承、風化防止、防災力向上に貢献する取組が必要
- ② 多様な交通ネットワークで国内外とつながる三陸
 - ・復興道路の全線開通など新たな交通ネットワークが整備
 - ・復興道路や港湾など多様な交通ネットワークを生かした三陸地域への周遊、誘客促進が必要
- ③ ジオパークで世界とつながる三陸
 - ・住民主体の活動などエリアとしての一体的な活動が拡大
 - ・世界ジオパーク認定を見据え、ジオパークの魅力を伝える人材の育成と誘客の促進が必要
- ④ 世界に誇れる食やスポーツでつながる三陸
 - ・三陸の豊かな食材や魅力を軸に据えた産業振興や、釜石鵜住居復興スタジアム等を活用したスポーツを通じた人的・経済的交流拡大に向けた取組を推進
 - ・三陸の「食」を核とした産業振興とスポーツ施設等を活用した大会・合宿誘致など国内外へのPRを実施し、人的・経済的交流の拡大につなげる必要
- ⑤ 次代を担う人材の育成
 - ・三陸DMOセンターが三陸地域の観光地域づくり人材育成等を推進し、三陸地域の多様な関係者との連携を強化
 - ・地域振興をけん引する継続的な人材の育成が必要
- ⑥ 多様な主体の参画と協働によるプロジェクトの推進
 - ・三陸振興協議会を設置し、関係団体の事業の共有と連携を推進
 - ・多様な主体が参画し、持続的な三陸振興につなげていくことが必要

今後の展開 NYタイムズ掲載を契機とした、盛岡を起点とした三陸地域への交流拡大

- ① 伝承館を拠点とした震災の事実・教訓の伝承の推進と県内震災伝承施設等との連携による三陸地域の周遊促進
 - ・三陸鉄道等の地域資源を活用した防災ツーリズム等による防災学習の推進
- ② 復興道路等を活用した物流態勢の構築支援
 - ・県内港湾への利用転換の促進とクルーズ船の更なる寄港誘致、国内航空会社と連携した三陸地域への誘客の促進
 - ・市町村等と連携した三陸鉄道の企画列車の実施による誘客促進
- ③ 地質遺産等や環境保全に関する知識を有する人材の育成
 - ・国内外との交流人口を拡大
- ④ 「食」を核とした地域振興の推進
 - ・三陸地域の特色を生かしたスポーツによる地域づくりの推進
- ⑤ 三陸DMOセンターを中核とした三陸観光振興体制の構築と観光人材の育成
- ⑥ 多様な主体の連携による交流人口の拡大と三陸地域の持続的な振興を図る取組を推進

令和6年度の具体的な取組

- ◇ニューヨーク・タイムズへの掲載を契機とした盛岡等内陸から三陸地域への誘客促進
- ◇東京大学など学術研究機関と連携した先進的な地域づくりの推進
- ◇三陸地域の総合的な振興を図る推進体制の検討

- ① 「防災」で世界とつながる三陸
 - 【**拡**】 県内外の多様な主体と連携し復興を推進するため、「復興フォーラム」を開催するとともに、**県内震災伝承施設等の情報発信**を拡充し、東日本大震災津波伝承館を拠点とした事実・教訓の伝承・発信、国内外へのいわての復興情報の発信を実施（復興情報発信事業費 23百万円）
 - 【**拡**】 三陸の地域資源と防災学習を活用して**企業の研修や大学の現地ゼミ等を誘致**（新しい三陸振興推進費 3百万円 [政プロ費]）
- ② 多様な交通ネットワークで国内外とつながる三陸
 - 港湾の利用促進と【新】クルーズ船寄港誘致のためのプロモーション活動**（港湾利用促進費 3百万円）（クルーズ船誘致プロモーション事業費 9百万円）
 - 三陸鉄道の開業40周年を契機としたイベントや観光資源を活用した企画列車の造成**等を支援（三陸鉄道運営支援事業費(岩手県三陸鉄道強化促進協議会負担金) 17百万円）
 - 【**拡**】 **空港の利用と沿岸地域への周遊を促進するプロモーション等**を実施（いわて花巻空港利用促進事業費 156百万円 [政プロ費]）
 - 【**新**】 旅マエ、旅ナカにおける情報発信の強化など**受入環境の整備の促進と海外へのプロモーション活動等**を実施（世界が気づいた岩手の魅力発信事業費 17百万円 [政プロ費]）
 - 【**新**】 **インバウンド誘客促進**に向け、三陸沿岸を含む**旅行商品の造成を支援**（インバウンドぐるっと県内周遊促進事業費 30百万円 [政プロ費]）
- ③ ジオパークで世界とつながる三陸
 - ガイド講習会やジオパークを活用した教育等を推進**するとともに、分かりやすい**ジオストーリーの発信や交流イベントの開催**等を推進。**世界ジオパーク認定**に向けた取組を実施。（三陸ジオパーク推進強化事業費 10百万円 [政プロ費]）
- ④ 世界に誇れる食やスポーツでつながる三陸
 - 【**拡**】 主に釜石港を利用した三陸地域の**中国向け輸出促進**のため、中国からバイヤーを招聘し、「いわて食の大商談会」での商談やライブ配信等を実施（海外輸出力強化事業費 38百万円 [政プロ費]）
 - 【**拡**】 水揚量が増加している魚種などを対象とした**新たな水産物の販路・物流モデル**等の構築に向けた取組を実施（新たな水産資源利活用モデル開発事業費 10百万円）
 - 【**新**】 **海業の理解醸成等**に向けたシンポジウムの開催や**ビジネスモデルの構築支援**（海業推進モデル事業費 5百万円）
 - いわてスポーツコミッションによる大会・合宿の誘致に向けた取組の実施（地域活性化スポーツ推進事業費 18百万円）
- ⑤ 次代を担う人材の育成
- ⑥ 多様な主体の参画と協働によるプロジェクトの推進
 - 三陸地域の地域資源を生かした商品企画力と実践力を備えた人材の育成（三陸観光プランナー養成塾）（三陸観光地域づくり推進事業費負担金 19百万円）
 - 【**拡**】 市町村、関係機関との連携強化による三陸地域の総合的な振興を図る推進体制の検討（新しい三陸振興推進費 3百万円 [政プロ費]）（再掲）

三陸防災復興ゾーンプロジェクトの今

1 新たな交通ネットワークによる産業の振興

- 港湾や復興道路等の整備により、企業立地が進展するとともに、コンテナ取扱貨物量が**震災前より大幅に増加**
- 復興道路等の全線開通で、水産物や農畜産物の輸送時間が大幅に短縮するなど**産業の振興に寄与**
- 花巻空港の国際定期便再開、外国船社クルーズ船の寄港再開による**国内外誘客の促進**

2 観光コンテンツの充実などによる誘客促進

- 三陸の「食」、三陸鉄道の企画列車、潮風トレイル、ジオツアー、野外体験施設など**観光資源が充実**
 〔三陸鉄道の海外からの団体利用が好調
 令和5年10月末 74団体2,026人〕
- 復興道路等の開通による高速バス等利便性の向上、復興道路周辺の道の駅の整備による**誘客促進**

3 防災を学習する場としての取組の推進

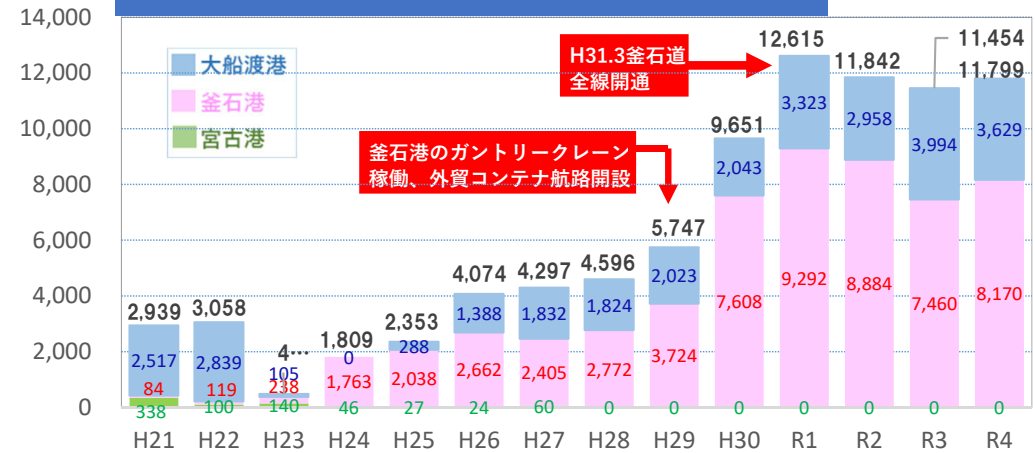
- 東北復興ツーリズム推進ネットワーク（事務局：JR東日本）の発足や一社）東北観光推進機構による台湾の教育関係者への震災遺構等視察実施など、**復興・防災を三陸の交流人口拡大につながる動きが活発化**
- 令和元年9月に開館した東日本大震災津波伝承館は令和5年12月末時点で**91万人が来館**

【参考：年度別来館者数（人）】

	R元	R2	R3	R4	R5（※）
来館者数	148,737	170,699	168,613	207,009	215,901

※令和5年12月31日時点

岩手県内の港湾におけるコンテナ取扱貨物量の推移



※岩手県港湾統計年報（H22～R3）、国土交通省 港湾調査「港湾統計（港別集計値 2022年1月～12月）」

※震災関連の一時的な取扱いを除いた貨物量であること。

三陸鉄道の企画列車
プレミアムランチ列車



クルーズ船寄港
(宮古港)



道の駅いわて北三陸
インツブテ公園



道の駅
やまだおいすた



【三陸鉄道震災学習列車利用者数】

